君の味（現代パロ）

彩月絢芽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の味（現代パロ）

【Nコード】

N1330Y

【作者名】

彩月絢芽

【あらすじ】

ハロウィーン前作の後日談

(前書き)

先ほどのハロウィーンの続きです。

この世界ではヒロインがーさんということになっていきます(汗)
了承してくださる方のみご覧くださいます。

「うわ、一くん、かぼちゃ全部料理に使っちゃったの？」

「何か問題があったか？総司」

「せっかくジャックオランタン作ろうと思って用意してたのに」

「？何なのだ、それは」

「ハロウィーンには、かぼちゃをくりぬいてろうそくを入れたりするんだ。」

それをジャックオランタンって言うの」

「・・・そうか、それでこんなに沢山かぼちゃがうちにあったのだな。」

早く処理しなくては傷んでしまうだろうと、出来る限り使ってしまったのだが・・・すまなかった」

「ううん、いいよ。ハロウィーン知らなかったんじゃ、仕方ないよね」

「実は・・・1つだけ、料理するには小さくてかわいそうだと思いついておいたのがあるのだ」

「そうなの？！じゃああとで一緒に作ろうか！」

「ああ・・・。それと、かぼちゃ料理ばかりになってしまったが、良かっただろうか？」

「うん、（まあ全品かぼちゃにすることもないと思うけど）僕は—
くんの料理ならなんでも好きだよ。」

特にお味噌汁ね、実家ではあんまり食べなかったから、君の味が
おふくろの味だね」

「そうか・・・／＼／＼いっぱい、食べるといい」

「うん、食べるよ（明日もかぼちゃ料理になるのか・・・）」

しかし、一の頭につけられたウサ耳カチューシャで、それすらも
許せる気になる総司であった。

(後書き)

みそ汁がおふくろの味、みたいなのが実話です

なんとなくーさんだったら全部かぼちゃ料理とかしてしまいそうだなと。

ちなみに、この世界での総司さんも料理は好きです。
むしろ甘党なのは総司さんです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1330y/>

君の味（現代パロ）

2011年11月16日12時14分発行